【地域に若い人が少ないこと、林業の補助金制度について】

Ｄ：　私は、去年４月から父親と一緒に林業をしています。それまでは高校を卒業してから漫画家になりたくて、大阪の専門学校に通っていました。専門学校卒業後、５年間、アルバイトをしながら自分なりに漫画を勉強していたんですが､去年高知に帰ってきました。

地域の課題として最初に感じたことは、若い人が少ないということです。若い人が増えたらいいなとは思うんですが、どうしたらいいのか、すぐには考えつきません。私は、都会より田舎のほうがいいなとずっと思っていたので、同じことを思う若者もいるのではと感じています。

今後の取り組みとしては、今はまだ林業を始めて１年しか経っていないので、林業を頑張る、それしかないですね。しかしまだ漫画の夢も捨てきれてないので、林業をやりながら漫画や絵を描いて、人に見てもらえるようなことができたらいいなと思っています。今の夢は、林業と漫画を両方やっていきたいということです。

それから、今、林業はいろいろな補助金をもらって、やっとやっていけるような感じのようです。その林業の支援、補助金などの制度がよく変わるらしいので、何年たっても変わらないようなものがあれば、山を持っている人たちにも補助金が出て、収入の見通しを立てる話もできるのに、と父親が話をしていました。

知事：　林業は確かに補助金の制度がコロコロ変わり、かつ複雑で、すごく使いにくいと言われたりもしています。去年も新システムを取り入れて、林業を業として成り立たせるための取り組みを思いっきりやっていこうという方向にはなっているんですが、制度的には少し厳しめになっているかもしれません。

ただ、林業を本当に業としてしっかり成り立つようにしていくことが、高知県にとってはものすごく大きなことだと思っていまして、今後徹底して取り組みを進めていくために３つのことを考えています。

１つは､「森の工場づくり」のような取り組みを進め、できるだけコストを低くして効率化していこうという方向。一方で、自伐林家の皆さんの取り組みも含めて、裾野広くいろいろな人に参加していただけるような方向を目指していこうと取り組んでいます。

そしてもう１つは、加工する部分。高知県は残念ながら、集成材なども県内では作れない状況にあり、県内で木を使った庁舎を作ろうとしても、その集成材を作るために県外に１回高知県の木を持って行って加工してもらい、もう１回逆輸入して作る形です。是非、その加工の部分を高知県内に作り上げていくことができないか、これを大豊町長さんなどと今、一生懸命取り組もうとしているところです。

３つ目は、地産外商の部分。大阪や名古屋、東京に流通拠点を設けて、そこを拠点にして売り込みをしていこうというものです。さらに売り込みをしていくときには、付加価値を付けて売り込みをしていくことも重要です。

さらに今後は、森の資源をエネルギー源として、いろいろな人々の暮らしを支えていくものに活用していくことができないか、また、木質バイオチップや木質バイオペレットを燃料源として暮らしていくという県内経済の構造を作っていくことができないか、そういったことを新たに追加して進めていこうとしているところです。

例えば、県内のハウスを加温するために使っている重油代は、年間５０億円ぐらいだそうです。この５０億円は、全部中東に抜けていると思います。もしハウスを加温するためのボイラーが、重油ボイラーではなく高知県の木で作ったチップやペレットだったら、その５０億円のお金は県内をぐるっと回ることになりますよね。高知県の山の元気につながっていくことができるようになるということです。一挙にというわけにはいきませんが、是非、そういう方向を目指していきたいと思っています。

しかし、しっかり用材にできるものは用材にして、端材の部分をペレットにしてというような全体的なシステムを作り上げないと、コスト割れをして大変なことになります。それこそ補助金がないとやっていけないという状況が続いてしまうことになろうかと思うんです。付加価値を付けるためにしっかり製材工場を誘致し、それに伴って端材の部分をペレットとして使っていけるような大きな流れを作り、１本１本間伐で取った少量の木であってもお金に変えていくことができるようにする、そういった仕組みを目指していきたいと思っています。県の産業振興計画の林業政策は、こういった方向です。

次に、漫画の夢はまだ捨てないでもらいたいと思います。まだ若いですし、もしかしたら日本で活躍する漫画家の中で、一番山の中にいる人かもしれませんね。是非頑張っていただきたいと思います。高知県は漫画王国で、漫画甲子園も今年で２０回目を迎えるにあたって、今度、漫画協会の特別賞もいただきます。ちなみに高知県庁に「まんが・コンテンツ課」があるのは知っていますか。漫画をしっかり応援していこうと「まんが・コンテンツ課」というのを作っているんです。

コンテンツ産業だったら地理的に不利とか、今までの産業の蓄積がないなどということが全く関係ないので、今から進める県でも十分に勝てます。しかも漫画家がたくさんいらっしゃるので、高知県でも十分競争力を持てるということで、新しい産業づくりの中でコンテンツを生かそうとしているのです。期待していますので、是非頑張ってくださいね

最後に、若い人が少ないというお話。町に若い人が多くなるということは、結局全ての課題が解決できるということになると思います。まずここにしっかりと夢が持てる仕事を作るとか、集落営農のような取り組みにしても、ばうむさんのような取り組みにしても、そういう仕事の場を作ることが必要です。さらには地元のいろいろな人同士が出会う場を作り、そういった魅力を発信して移住者も引っ張ってくるなど、いろいろなことを組み合せることで若い人もたくさん住む町になると思います。

逆に、是非お願いしたいなと思うことは、大阪に７年おられて友達がたくさんいらっしゃるでしょう。その大阪の友達たちを、夏休みや盆暮れ正月に高知へ連れて来てもらいた

いです。大阪よりもこっちのほうがいいと思ったというものを是非、大阪にいる友達に見せてやってもらいたいと思います。

移住するとまではならないかもしれないけど、せめて休みのたびに（あそこに行きたいな）と思ってもらえることもあるのではと思います。すると、「好き、だけどこういうところは嫌い」などという話も、言われるかもしれないので、もしかしたら可能性と限界の両方が見えてくるかもしれません。